

A. 主な動き

1. 内政

▼新会派結成の動き

- ・8日、ドドン社会党党首及びツルカン「統一モルドバ」党党首は、左派勢力強化を目的とした両党の合併を発表。
- ・9日、チェバン無所属議員(社会党所属)は、人的資源管理及び党内意思決定の問題が同氏が共産党離党を決断した理由である旨発言。
- ・12日、無所属のドドン議員グループ4名及びミシン議員グループ3名は、議会内新会派の結成を発表。これに対し、同日、議会は、議会発足から10日目以降の新会派形成を禁じるムンチャン自由党議員発案の法案を第一読会にて採択。

▼その他

- ・10日、ブッキキオ・ベニス委員会議長は、ストラズブールでのヴォローニン共産党党首との会談においてモルドバにおける新憲法起草の必要性は見当たらないとし、憲法改正を検討するための与野党合同委員会の設置を提案。

▼世論調査

[CBS-AXA]

- ・次の日曜日に議会選挙が実施された場合の政党支持率
共産党:29.5%、自由民主党:21.0%、民主党:8.2%、自由党:7.9%、社会民主党:1.1% 等
- ・調査は9月19日から27日にかけて1,225名の成人を対象に実施。

2. 経済

▼IMF

- ・9日、ミルゾエフ IMF 駐モルドバ事務所長は、10月末にモ

ルドバの2012年経済成長見通しの改訂を行う予定であり、農業分野の低迷のため2012年の経済成長は下降するであろうが、それ以外の部門では経済の持続的発展を支援するレベルで発展している旨発言。また、モルドバとの3年間の協力プログラムは成功裏に完遂する予定であり、11月にはIMFがモルドバを訪問し、モルドバ政府が希望する新たなプログラムを協議することになるだろう旨言及。

3. 沿ドニエストル

- ・12日、シュタンスキ「外相」は、キシナウを訪問し、カルポフ国家再統合問題担当副首相と会談。双方は、鉄道輸送及び教育分野における問題に関し協議し、銀行業務に関する作業部会を設置することで合意。
- ・同日、カルポフ副首相は、グバレフ沿ドニエストル問題担当露大使と会談し、第4回「5+2」者会合の成果及び次回会合の展望に関し協議。また、13日、シュタンスキ「外相」は、グバレフ大使と会談し、ユーラシア統合、ロシアとの協力及び沿ドニエストル紛争解決等の問題に関し協議。

4. 二国間関係

- ・8日、平成23年度対モルドバ貧困農民支援(2KR)の引渡式を実施し、坂田大使、フィアト首相及びブマコフ農業食品産業相等が出席。日本政府からトラクター58台を供与。坂田大使及びフィアト首相より農民代表へ農機用ナンバープレートを贈呈。

※本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」(ロシア語読み)を暫定的に「キシナウ」(モルドバ語読み)と表記しています。

(了)